

# 学校DX戦略: 教育の未来を築くための設計図

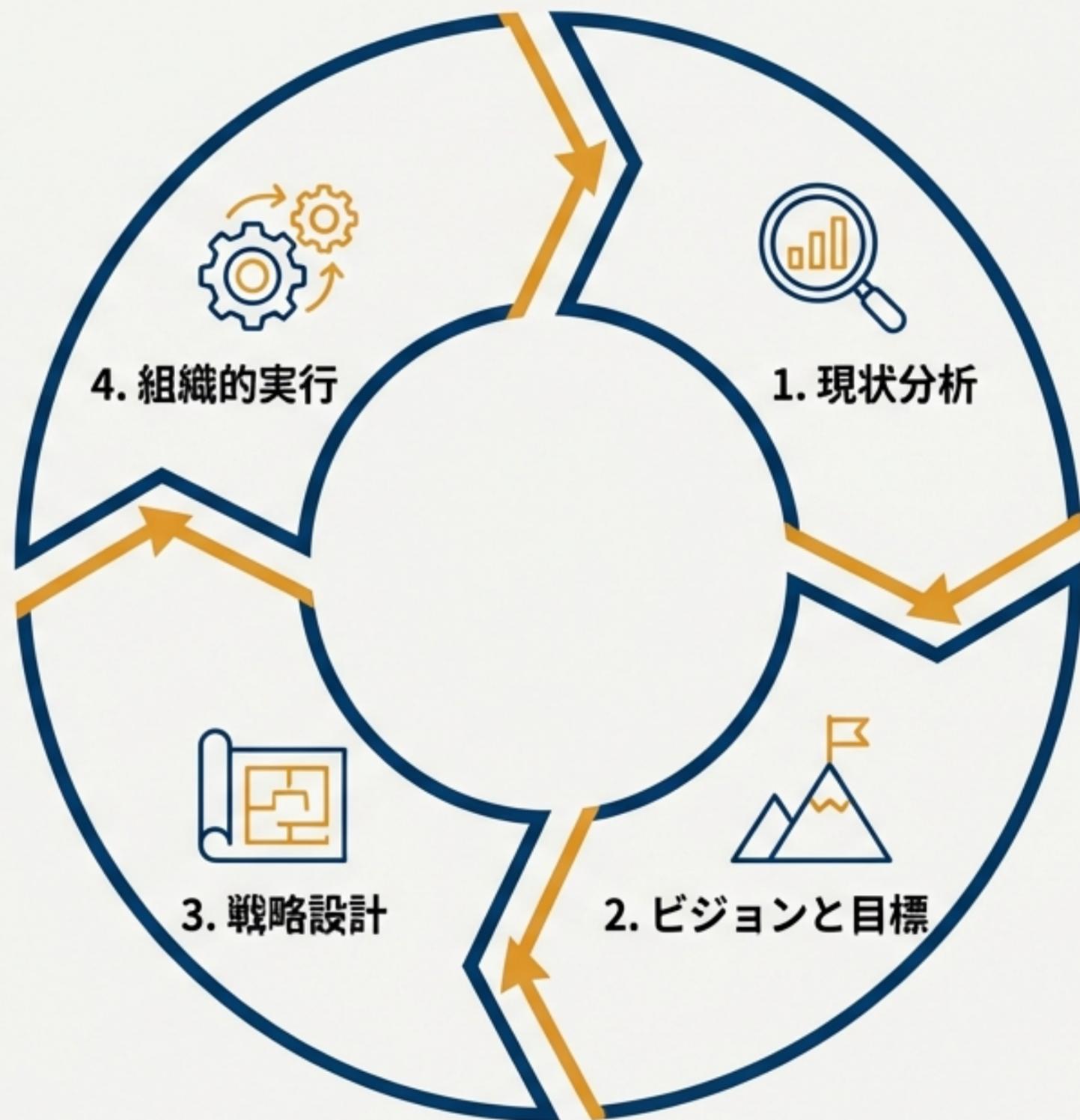


未来への架け橋を架ける

# なぜ「学校DX戦略」が不可欠なのか？

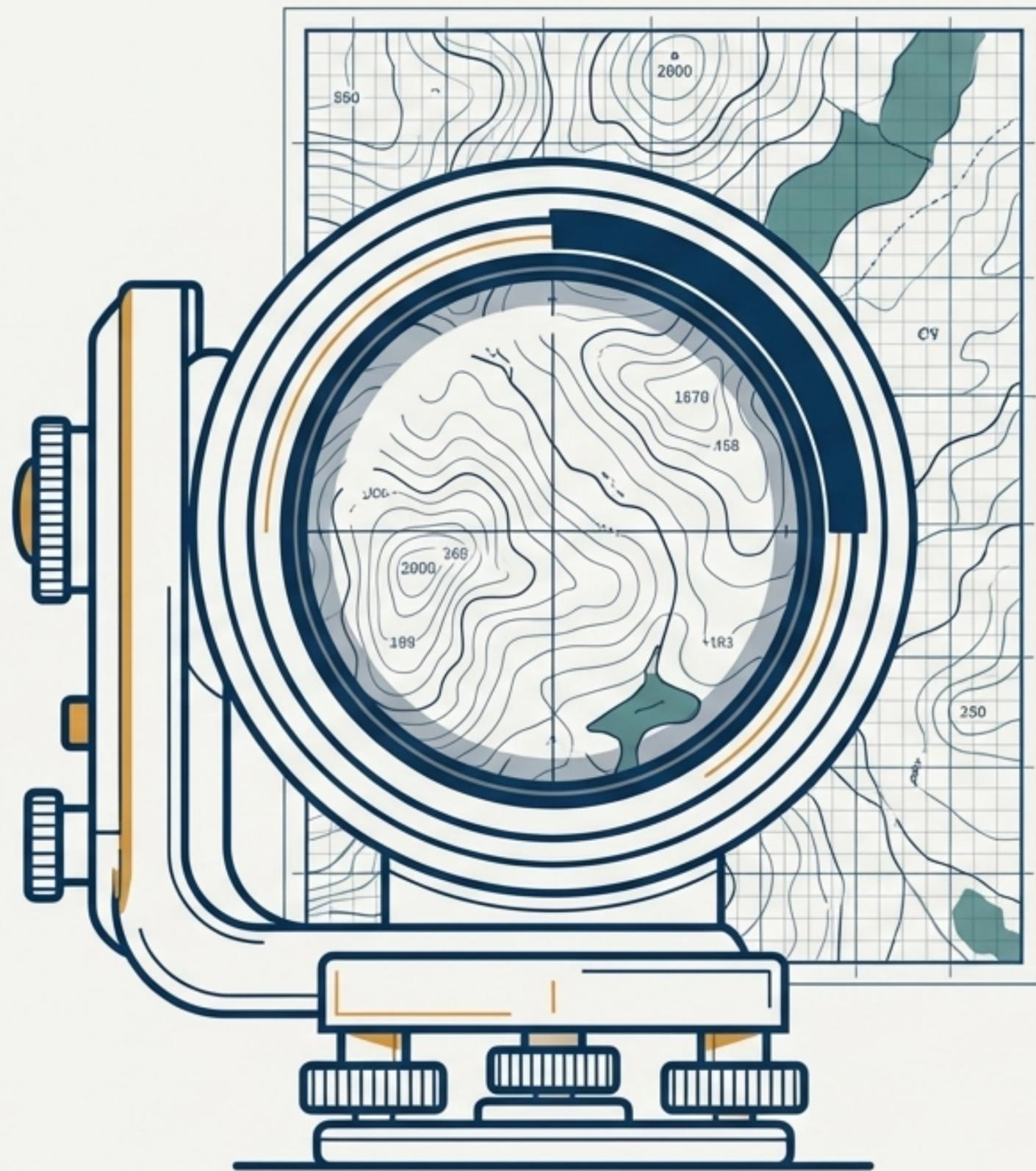
学校DX戦略とは、デジタル技術を活用し、学習モデルの**質的な変革** (#E89F1E) を目指すための計画です。

それは単なるツール導入計画ではありません。現状の課題を分析し、明確なビジョンを掲げ、新たな教育価値を創出するための**羅針盤**となります。



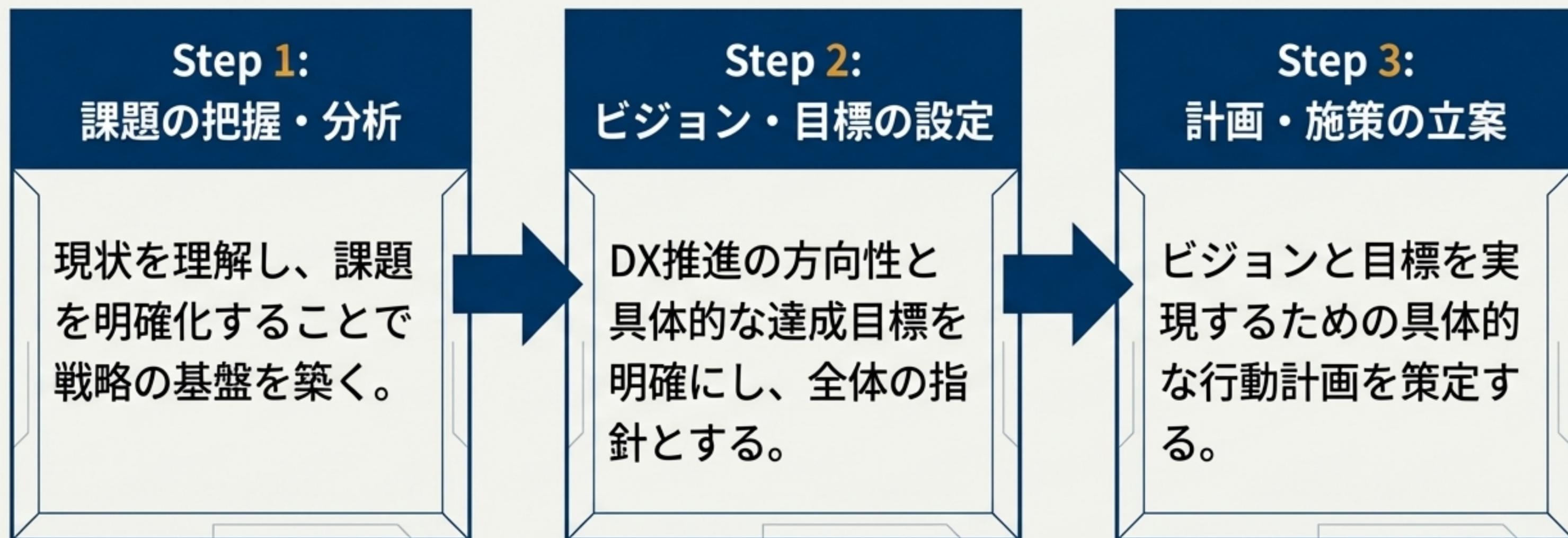
# Part 1: 現在地の把握

戦略は、正確な自己分析から始まる



# 学校DX戦略策定の3ステップ

DXを前進させるためには、各段階で議論を迅速に進め、着手可能な部分から実行し、その成果を組織内に広げていくことが求められます。



# Step 1: 何を、どのように調査・分析するか？

デジタル導入の現状を多角的に調査し、客観的なデータを収集します。



## デジタル環境の把握

- ネットワーク環境、ハードウェア、校務支援システム、学習ツール、保守体制



## セキュリティポリシーの把握

- 対策基準、遵守状況、インシデント履歴、改訂状況



## デジタルリテラシーの評価

- 教職員・児童生徒のICTスキル、ツール活用状況



## 既存の活用事例の収集

- 成功事例と失敗事例の両方を収集

# 課題を特定する4つの視点とSWOT分析

収集した情報をもとに、課題を体系的に整理し、戦略的な示唆を導き出します。

## 4つの課題領域

<b>技術的課題</b> ネットワーク不具合、セキュリティ脆弱性	<b>人的課題</b> ICTスキル不足、デジタル活用への抵抗感
<b>運用的課題</b> マニュアル不足、アカウント管理体制の不備	<b>財政的課題</b> 初期投資・維持費の確保、不必要なシステムへの予算配分

## 戦略的ツール: SWOT分析

<b>強み (Strengths)</b> 優れた人材や成果	<b>弱み (Weaknesses)</b> 抽出された技術的・人的問題点
<b>機会 (Opportunities)</b> 最新技術の導入、外部資源の活用	<b>脅威 (Threats)</b> 技術進化への対応遅れ、予算制約

# Part 2: 目指す未来

DXが拓く、新たな学びの風景



# DXが実現する「4つの変革」



## 学習の個性化

児童生徒が興味や得意分野に応じて、自ら学び方を選択できる。



## 指導の個別化

学習データに基づき、教員が一人ひとりに最適化された支援を提供する。



## 学びのグローバル化

地理的な制約を超え、海外の学校との協働学習を実現する。



## 学びのボーダーレス化

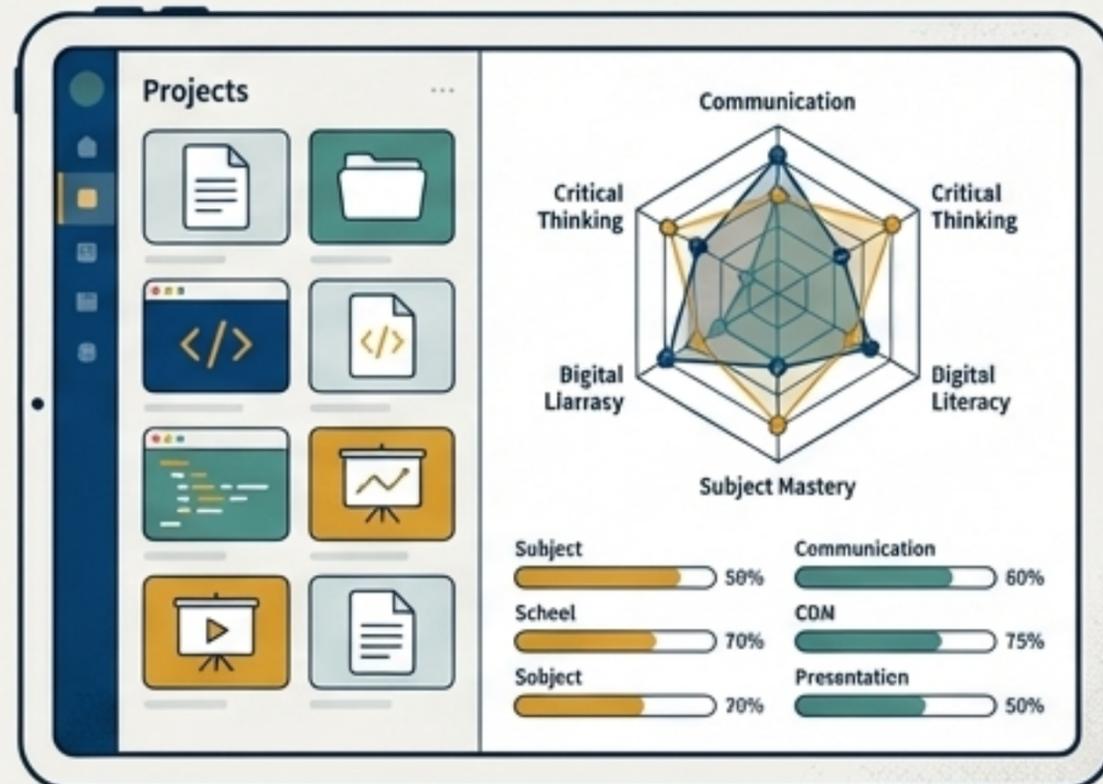
学校外の専門家や地域資源と繋がり、学びの場を拡張する。

# 個の学びを最大化する：学習者と指導者の変革

## 学習の個性化（For the Learner）

取り組み例: デジタルポートフォリオの活用

作品やレポート、スキルを記録・保存し、自らの進捗を可視化。得意・不得意を分析し、次の学習目標を設定する。



## 指導の個別化（For the Instructor）

取り組み例: アダプティブ・ラーニング教材

生成AI等を活用し、児童生徒の理解度に合わせて最適な問題を出題。苦手分野の克服を効率的にサポートする。



# Part 3: 未来への架け橋を架ける

ビジョンから実行計画へ



# Step 2: 羅針盤となるビジョンと目標を設定する

## ビジョンの策定

- DXを通じて学校がどのような場所となり、どのような資質能力を育むのか？

「全ての児童生徒に個別最適化された学習環境が提供され、相互の尊重による対話的で協働的な学びにより、地域の未来を担う豊かなキャリア形成の基礎となる資質能力を育む。」

- 既存の教育理念との整合性を確保する。

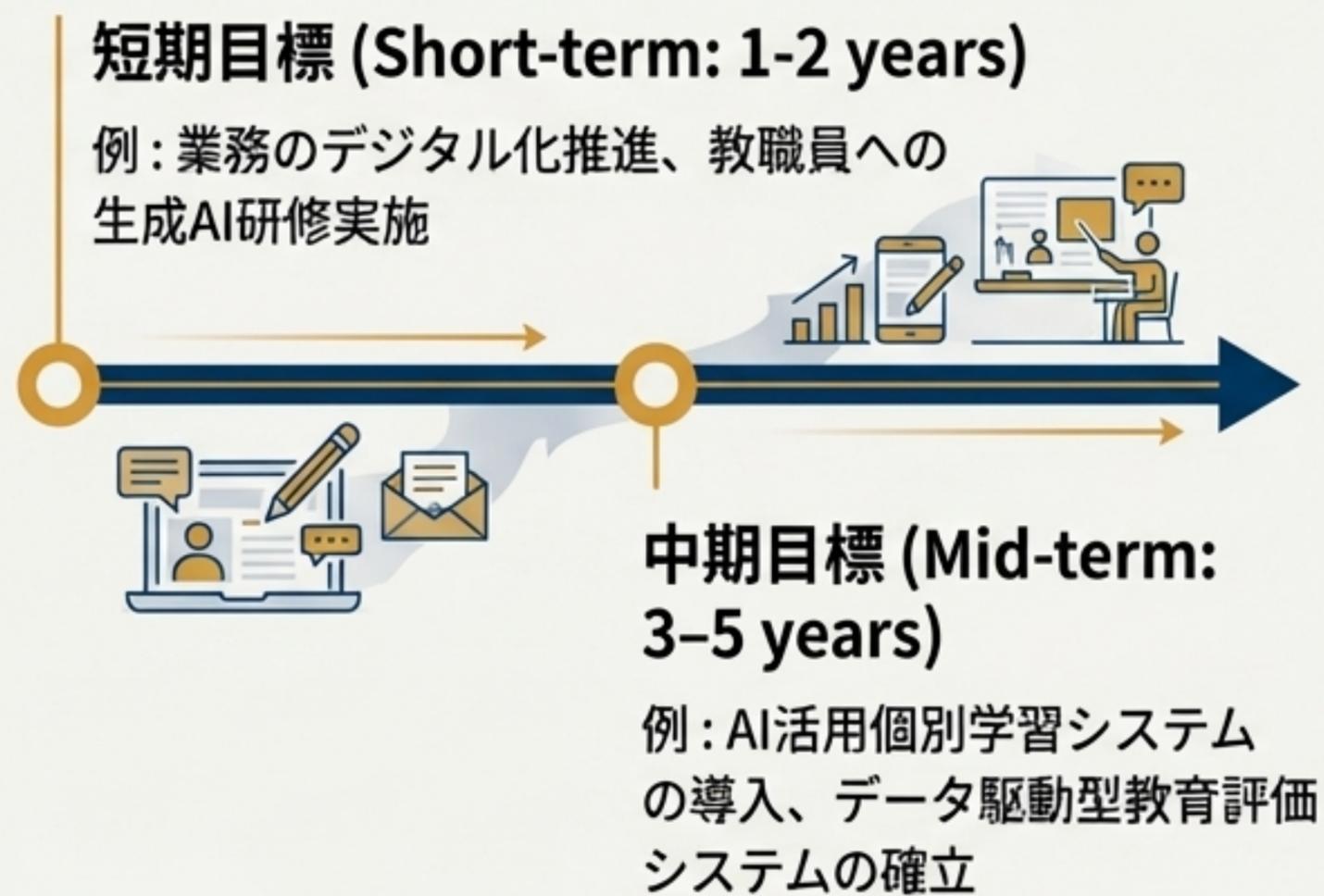
## ステークホルダーとの合意形成

- ビジョンと目標を全関係者に共有し、理解と共感を得る。
- 意見を反映し、目標設定を調整する。



# 目標を具体化し、進捗を可視化する

## 段階的な目標設定



## KPI (重要業績評価指標) の設定



**定量的指標 (Quantitative Indicators)**

例: デジタルツールの利用率、生成AIの活用率



**定性的指標 (Qualitative Indicators)**

例: 教職員の満足度、児童生徒の情報活用能力の向上

文部科学省「教育DXに係るKPIの方向性等」も参考に設定。

# Headline: Step 3: 目標達成のための実行計画（ブループリント）

## 1. 具体的施策

インフラ整備、教職員研修、デジタル教材導入、新学習モデル確立

## 2. プロジェクト計画

タスク分解、スケジュール設定、担当者明確化

## 3. 予算計画

必要経費の算出、補助金活用、既存予算の見直し

## 5. 評価・改善の仕組み

定期的な進捗確認、KPIに基づく効果評価、フィードバックループの確立

## 4. リスク管理

潜在リスク（技術障害、予算不足、業務負担増）の特定と対応策の策定

実行計画

```
graph TD; A((実行計画)) --- B[1. 具体的施策]; A --- C[2. プロジェクト計画]; A --- D[3. 予算計画]; A --- E[4. リスク管理]; A --- F[5. 評価・改善の仕組み];
```

# Part 4: 乗り越えるべき3つの壁

(Subtitle): 課題と実践的対応策



# 壁①: 教員間のスキル・経験の差をどう埋めるか？

## The Challenge

- ICTに苦手意識を持つ教員は、初期トラブルで意欲を失いやすい。
- 得意な教員に負担が集中し、ノウハウの共有が進まない。

## 3つの対応策



小さな成功体験  
づくり

「1授業1機能」から始め、徐々に活用機会を増やす。



ペア or グループ  
でのOJT

経験者と初心者がペアを組み、授業中にサポート。短時間の振り返りで学び合う。



活用アイデアの  
「テンプレート」共有

校内Webサイト等で「すぐに使える」事例を収集・発信する。

# 壁②&③：推進体制と専門的知見をどう確保するか？

## 課題② コーディネータの確保・育成



- **役割の明確化**：情報共有、ファシリテーション、進捗管理など
- **体制の構築**：教育委員会内に育成・連携の仕組みを構築
- **研修プログラム導入**：スキルチェックリストやeラーニングを活用
- **外部委託の検討**：内部での確保が困難な場合、非常勤・業務委託も視野に

## 課題③ 専門家との連携



- **大学・研究機関**
  - 授業デザインの検証や教員研修のカリキュラム開発を依頼
- **国の支援施策**
  - 文部科学省「学校DX戦略アドバイザー事業」等を活用し、専門家の派遣を要請

## 共に成長する組織へ：成功体験から「従来以上の価値」の実感へ

Body Text: 変革には不安が伴います。しかし、着手できる部分から始め、小さな「成功体験」を積み重ねることが、組織全体の文化を変革します。ステークホルダー全員が協力し、共に成長することで、学校DXは真の価値を発揮し、より良い教育の未来を築くことができます。

